

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひふみ中越教室		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 16日		2024年 10月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2024年 9月 16日		2024年 10月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職（理学療法士）を配置し、専門的な支援を行なっています。	理学療法士による専門的視点で、個別課題を行なっています。	個別の課題内容も都度見直ししながら、個別に課題、学習、作業に工夫を行い、生活動作、就労に繋がるような充実した取り組みを行っていきます。
2	運動プログラムは過ごとに工夫されたプログラムの構築ができています。	5領域、感覚統合の面からもプログラムに取り入れながら、児童の発達状況に合わせて難易度を変えたり段階的に取り組んでいます。	柳沢運動プログラムを主軸とし、脳機能を改善する運動療育を提供しています。また支援会議、送迎時での関係機関との連携も密に行い、児童のレベル、現状に合わせた運動プログラムを構築できるように配慮しています。
3	ご利用者のサポート支援、社会体験の取り組みを積極的に取り組んでいます。	ご利用者様ご本人の意向に寄り添った支援や、ご家族のご要望やご希望にあった支援、療育を行います。電話連絡だけでなくLINE等のツールによって相談しやすい環境も構築しています。	運動療育だけでなく、学校休業日には様々な社会体験が行えるように計画をしております。令和6年内ではバーベキューやプール、餅つきなど、ご家庭によっては中々取り組めない体験も行なっています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援のフロア自体は広いのですが、多機能型の事業所のため、長期休み等の場合、児童発達支援の児童と活動時間が重なってしまう為、活動を分けることに課題があります。	支援のフロアは広いのですが、児童発達支援と放課後等デイサービスの児童が同じ活動時間になった場合、空間を仕切ることが難しいです。	活動時間が重なる場合、可能な限り放課後等デイサービスの児童は課外活動として公園や屋内施設、体育館などに移動し活動を分けています。
2			
3			